



飯山城下町ひな街道

ひな人形展

令和5年 2月11日(土・祝)～3月19日(日)

- ◆開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日
- ◆入館料 一般200円 小中学生100円 (※市内小中学生は無料)

同時開催 本町商店街ひな街道展示

令和5年 2月11日(土・祝)～3月5日(日)

本町商店街ショーウィンドー、ギャラリーふるさと(肴町)、飯山駅観光交流センター

奥信濃飯山のひな人形

城下町として栄えた飯山町では、江戸や京都の文化がいち早く取り入れられ、ひな祭りも飯山藩の武家から城下町の商家へ伝わり、江戸時代の終わり頃には有力な商家においても雛人形を飾ってひな祭りを行うようになりました。戦後には多くの家庭でひな人形に孫や子の幸せを願う思いを込め、健やかな成長を祈るひな祭りが行われてきました。企画展では城下町飯山に伝わるさまざまな時代の雛人形を紹介いたします。

享保雛

江戸時代中期、町家を中心にして流行した雛人形です。総じて大形のものが多く、面長な顔立ちと切れ長の目が特徴です。

女雛は五(いつつ)衣(ぎぬ)・唐衣に似せた衣装で、綿を入れて丸く膨らませた赤い袴を着けています。男雛は束帯に似た装束で、手に笏を持っています。金襴(きんらん)や錦に飾られた上質な織物を使った装束の人形もありました。

飯山市内の商家にも享保雛が伝わっており、その頃からすでにひな祭りが行われていたことがうかがえます。



古今雛

古今雛は、江戸時代後期に江戸の町人が作りあげた雛人形です。町雛でありながら身分を超えて珍重され、これまでの京風の雛人形に代わり流行していきます。雛人形として完成の域に達した古今雛の様式は、明治以降、現代の雛人形まで引き継がれています。

この雛人形は、安政5年(1858)、雛人形の取次を商いしていたとみられる飯山本町の河内屋與兵衛を介して、戸狩新田の佐藤権左衛門が江戸両国米沢町の橘屋忠右衛門から購入した古今雛段飾り一式です。人形の制作及び購入の時期、購入先がはっきりわかる大変貴重な人形です。



～「ひなの会」の皆さまの色鮮やかな「つるしびな」や
サークル「友創」の皆さまの「着物リメイク作品」もぜひご覧ください～



ふるさと館入館割引券
本券にて団体割引料金で入館できます。
大人 150円・小中学生 50円
(市内の小中学生は無料)
開館時間: 9:00～17:00
(入館は16:30まで)
有効期限: 令和5年3月19日